債券・為替
ウィークリーレポート

カナダ

ブラジル

メキシコ

オーストラリア

ニュージーランド

ノルウェー

南アフリカ

インドネシア

インド

Asset Management One | アセットマネジメントOne

商 号 等 ：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

市場概要・見通し（カナダ、ブラジル、メキシコ）

情報提供資料
2019年11月8日基準

国（地域）	格付（※1）	債券（※2） 11/8 （11/1との比較） 今後の見通し（※4）	為替（対円） 11/8 （11/1との比較） 今後の見通し（※5）	経済成長率 前年比（※3） 景気の方向性（※6）	政策金利 先週末 方向性（※7）	先週の動向	今週の見通し
カナダ	AAA	1.58% (+0.14)	82.59円 (+0.33%)	+1.6% 2019年2Q	1.75%	発表された住宅着工件数が市場予想を下回ったほか、雇用統計は正規雇用者数が市場予想を下回り減少するなど、総じてネガティブな内容。原油価格が上昇したこともあり、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	中古住宅販売件数などが発表予定。金利水準の方向性に大きな影響を与える米国金利が当面落ち着いた値動きとなると想定される中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	⇒ 金利横ばい	⇒	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル	BB-	5.65% (+0.32)	26.22円 (▲3.26%)	+1.0% 2019年2Q	5.00%	発表されたサービス業のPMI（購買担当者景気指数）は前月比で悪化した一方、インフレ指標は概ね市場予想並みとなる内容。政府が行政・財政改革案を発表したものの、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	小売売上高などが発表予定。足元の経済指標に力強さが欠けていることから、政治動向に注目が集まる展開が想定される中、その発表内容によっては前週同様、債券・為替市場の値動きが激しくなる展開を予想。
	Ba2	⇒ 金利横ばい	⇒	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
メキシコ	A-	6.73% (+0.10)	5.72円 (+1.14%)	-0.5% 2019年3Q	7.75%	発表された消費者信頼感が市場予想を下回った一方、CPI（消費者物価指数）は市場予想とほぼ同程度の内容。米国の金利上昇もあり、国債利回りは上昇。メキシコペソは対円で上昇。	鉱工業生産などが発表予定。また金融政策決定会合が予定されており、市場は0.25%の利下げを予想。今後の金融政策に関する発言に注目が集まる中、金利水準については低下基調となる展開を予想。
	A3	↘ 金利低下	⇒	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利 、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

国（地域）	格付（※1）	債券（※2） 11/8 （11/1との比較） 今後の見通し（※4）	為替（対円） 11/8 （11/1との比較） 今後の見通し（※5）	経済成長率 前年比（※3） 景気の方向性（※6）	政策金利 先週末 方向性（※7）	先週の動向	今週の見通し
オーストラリア	AAA	1.29% (+0.19)	74.94円 (+0.32%)	+1.4% 2018年4Q	0.75%	発表された小売売上高は市場予想を下回った一方、貿易収支は市場予想を上回る内容。市場予想通り政策金利が据え置かれる中、経済が改善しつつあると中銀が言及したこともあり、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	消費者信頼感指数や企業景況感、雇用統計などが発表予定。中銀は労働市場を注視しているとみられ、雇用統計の内容から目が離せない中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
ニュージーランド	AA+	1.38% (+0.11)	69.14円 (▲0.57%)	+2.1% 2018年4Q	1.00%	発表された住宅価格の上昇率は前月を上回った一方、雇用統計は概ね市場予想並みの結果。追加利下げの可能性が意識される中、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは上昇。	住宅売上高や食料品価格などが発表予定。また金融政策決定会合が予定されており、市場では0.25%の利下げを予想。債券・為替市場ともに、これらの経済指標や中銀高官の発言内容に連動しやすい展開を予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
ノルウェー	AAA	1.60% (+0.21)	11.96円 (+0.50%)	-0.7% 2019年2Q	1.50%	発表された鉱工業生産は前月に続き前年を下回る結果。原油価格が上昇したこともあり、ノルウェークローネは対円で上昇。米国を中心に世界的に金利が上昇する中、国債利回りは上昇。	CPIやGDP（国内総生産）、貿易収支などが発表予定。引き続き、債券・為替市場ともに、欧米を中心とした金利動向や米中の貿易協議の進展など、海外の動向に影響を受ける展開を予想。
	Aaa	⇨ 金利横ばい	⇨	↗ 景気拡大	→ 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート 、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

国（地域）	格付（※1）	債券（※2） 11/8 （11/1との比較） 今後の見通し（※4）	為替（対円） 11/8 （11/1との比較） 今後の見通し（※5）	経済成長率 前年比（※3） 景気の方向性（※6）	政策金利 先週末 方向性（※7）	先週の動向	今週の見通し
南アフリカ	BB+	7.48% （▲0.10）	7.35円 （+2.40%）	+0.9% 2019年2Q	6.50%	発表された消費者信頼感や企業景況感、製造業生産のいずれも市場予想を下回る内容。前週に、大手格付け会社が格付け見通しを引き下げたものの格付けを据え置いたこともあり、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	小売売上高や鉱物生産量などが発表予定。格付け据え置きにより短期的にランドは反発したものの、将来的な機関投資家による南アフリカ国債強制売却の可能性が残る中、債券・為替市場ともに値動きの激しい展開を予想。
	Baa3	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気停滞	↘ 利下げ局面		
インドネシア	BBB-	6.43% （▲0.03）	0.78円 （+1.06%）	+5.0% 2018年4Q	5.00%	発表された対外純資産は前月を上回ったほか、GDPは概ね市場予想並みではあるものの3四半期連続で鈍化。トランプ大統領が米中の関税撤回への同意を否定する中、国債利回りは低下。インドネシアルピアは対円で上昇。	貿易収支などが発表予定。経済が伸び悩む中、引き続き米中の通商協議の動向など海外の経済環境に注目が集まり、債券・為替市場はともに一進一退となる展開を予想。
	Baa2	⇨ 金利横ばい	⇨	→ 景気安定	↘ 利下げ局面		
インド	BBB-	6.27% （+0.04）	1.53円 （+0.33%）	+5.0% 2019年2Q	5.15%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。大手格付け会社が財政悪化懸念などから格付け見通しを引き下げたものの、格付けを据え置いたこともあり、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは上昇。	鉱工業生産やCPI、貿易収支などが発表予定。市場での期待感は高くないものの、金融緩和の累積的な効果や法人税減税の効果など将来的な経済への期待感もあり、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	⇨ 金利横ばい	⇨	↗ 景気回復	↘ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

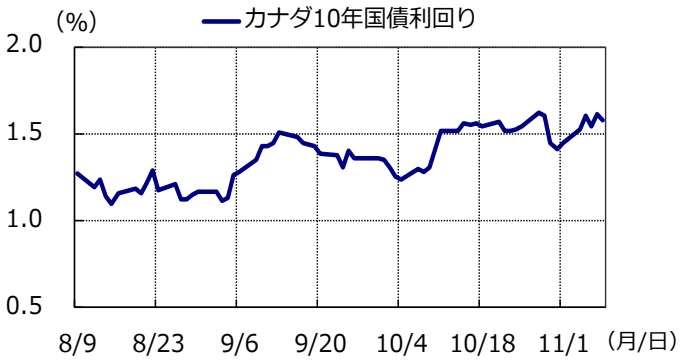
※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

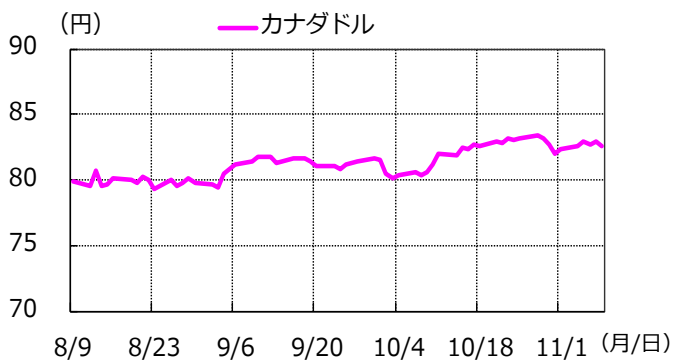
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

債券・為替（対円）の市場動向（カナダ、ブラジル、メキシコ）

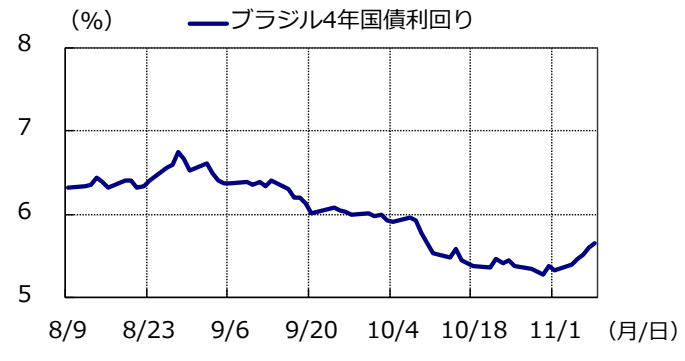
期間：2019/8/9~2019/11/8

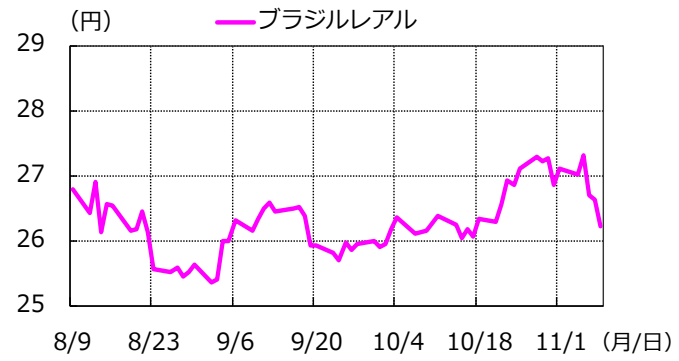
カナダ



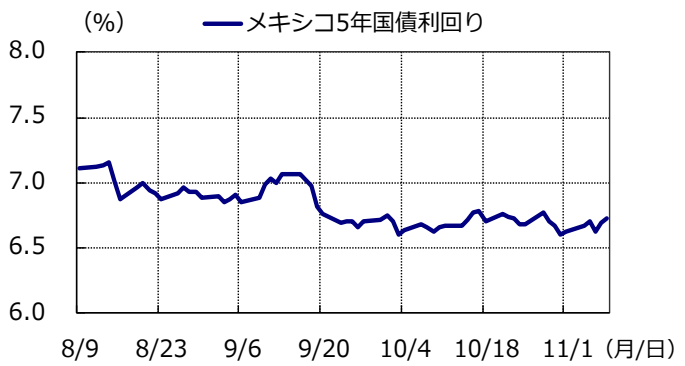


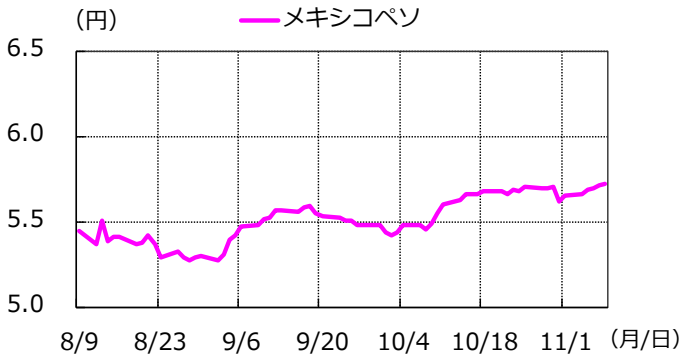
ブラジル





メキシコ





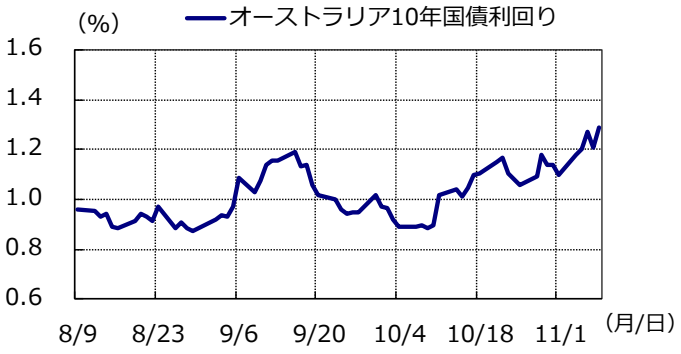
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

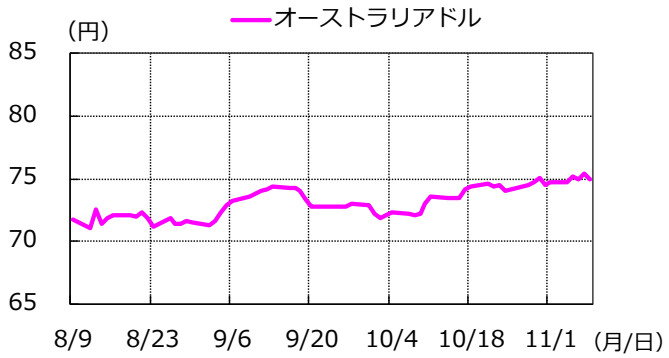
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

債券・為替（対円）の市場動向（オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

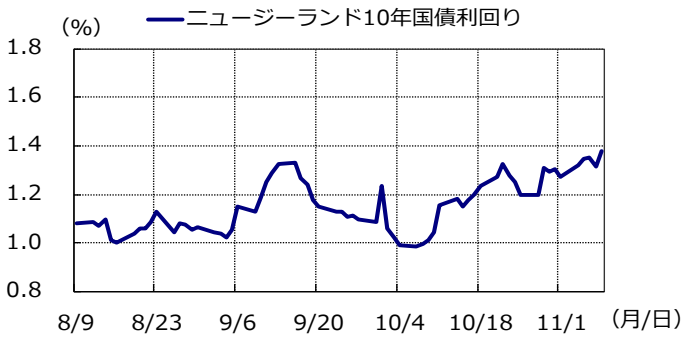
期間：2019/8/9~2019/11/8

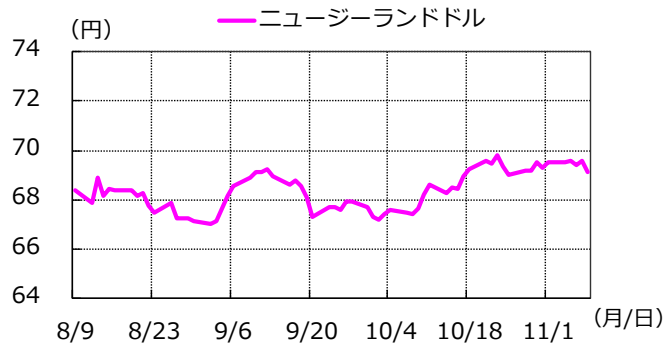
オーストラリア



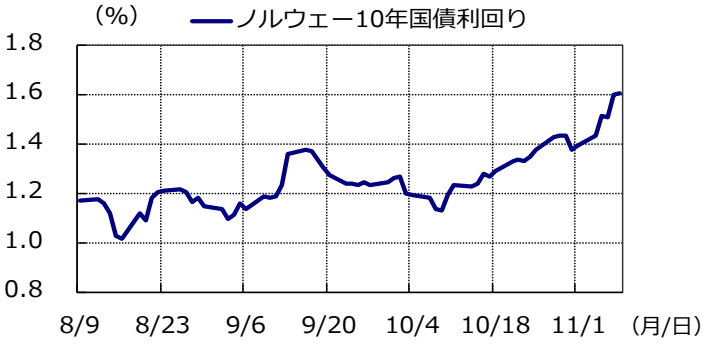


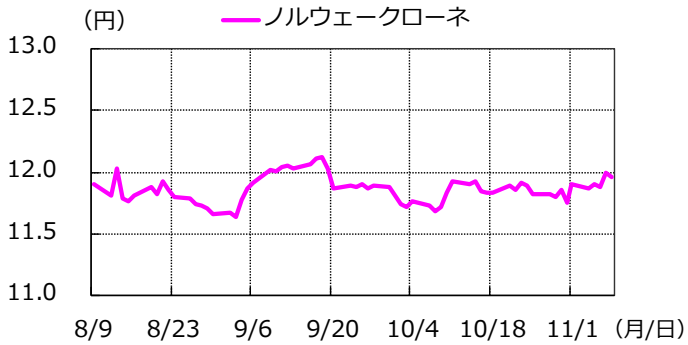
ニュージーランド





ノルウェー





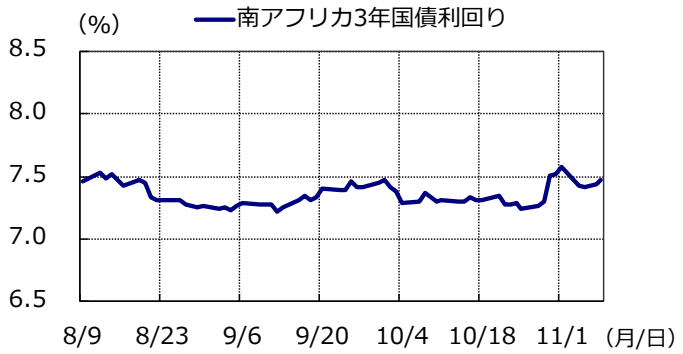
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

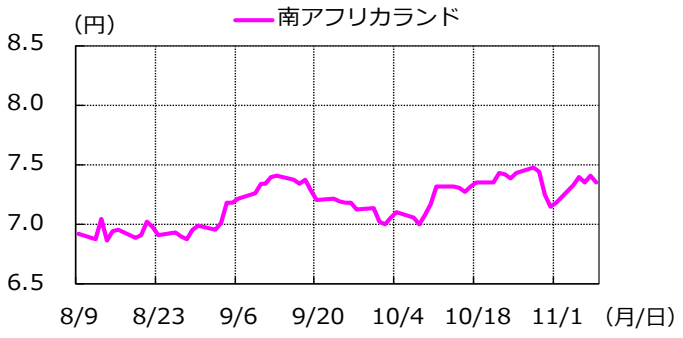
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

債券・為替（対円）の市場動向（南アフリカ、インドネシア、インド）

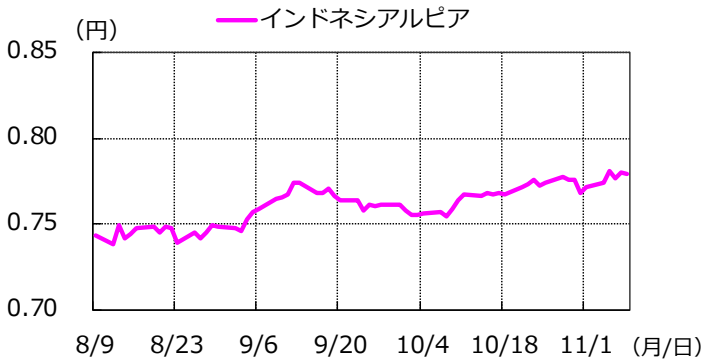
期間：2019/8/9~2019/11/8

南アフリカ

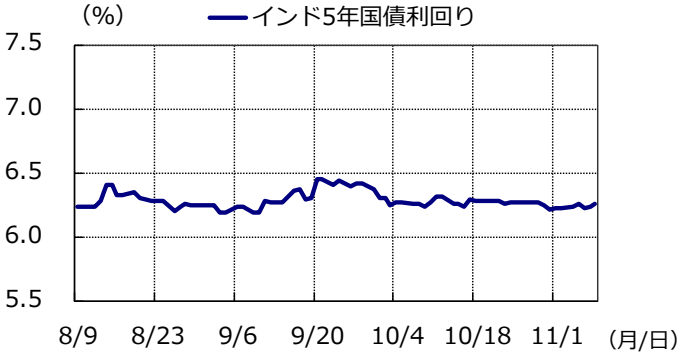


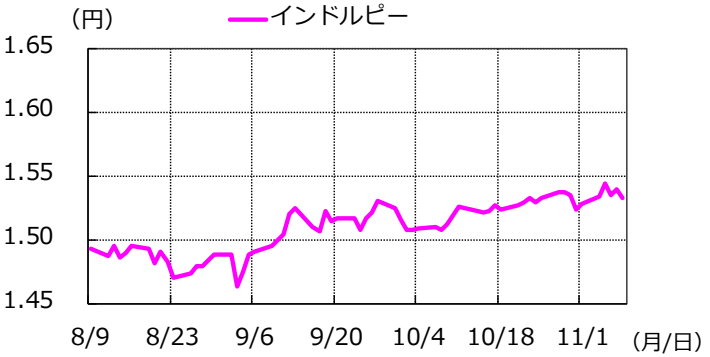


インドネシア



インド





※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。　※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

［ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。］

■お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1．預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2．購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3．投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。